

国内肥料資源の活用促進を!! 下水再生リン回収施設完成

横浜市は3月27日、下水道改革的技術実証事業（B-Dashプロジェクト）で整備をすすめてきた「下水再生リン回収施設」の完成式を開催した。

下水道改革的技術実証事業は、下水汚泥の脱水ろ液から効率的にリンを回収する技術の実証を行うもので、肥料の国産化と安定供給を目指すことを目的としている。今回同施設では、横浜市内で発生する泥から年間約40トンのリンを回収する予定としている。

JA全農かながわは昨年7月27日、回収したリン（再生リン）を配合した肥料の開発・製造、流通・利用促進を目的に、横浜市・JA横浜と「下水再生リンの肥料利用促進に関する連携協定」を締結した。今後、全農は再生リンを配合した肥料の製造を担うことになる。

JA全農かながわの根倉修県本部長は「農家・組合員への肥料安定供給を第一に、組合員をはじめとする利

用者ニーズと原料・製造のマッチングを行い、環境調和型農業に対応した肥料の製品化をはかっていく。」とコメントした。

本取組では、2027年3月から横浜市内で開催される、横浜国際園芸博覧会に向けて取り組みをすすめ、国内肥料資源の活用促進を図ることを計画している。



完成した下水再生リン回収施設前で行われたテープカット(写真提供:JA横浜)

トマト・キュウリ品質向上を目指して 県施設野菜共進会を開催

農産総合課が事務局を務める神奈川県施設野菜組合連合会は、県施設野菜共進会を開催した。3月5日～4月10日の期間で「立毛の部」、4月12日に「野菜の部」の審査を行い、各賞を決定した。

「立毛の部」には、トマト19点、キュウリ15点の計34点が出品され、収量や整枝状態、生育状態などを厳正に審査した。また、「野菜の部」には、トマト38点、キュウリ58点の計96点が出品され、色、形状、揃いなどを厳正に審査した。審査結果は表の通りとなった。



審査は県農業技術センターの職員や市場関係者によって行われた

〈立毛の部〉			
	氏名	品目	支部名
農林水産大臣賞	齊藤 誠	キュウリ	平塚
神奈川県知事賞	和田 浩明	トマト	藤沢
	吉川 猛	キュウリ	平塚

〈野菜の部〉			
	氏名	品目	支部名
神奈川県知事賞	和田 浩明	トマト	藤沢
神奈川県知事賞	高橋 重雄	キュウリ	綾瀬



柑橘の安定経営に向け情報交換 キウイフルーツの優良園表彰も

農産総合課は3月14日、「令和5年度柑橘安定経営研修会並びにキウイフルーツ園管理共進会表彰授与式」をJAかながわ西湘本店で開催した。生産者、JA職員、関係機関など約55名が参加した。本研修会は、県内の柑橘生産者が高齢化により減少が続ける中、安定経営に向けた情報交換の場として開催されている。

神奈川県の令和5年度温州ミカン生産量は、13,440トンで昨年を上回る見込み。今年は開花が平年に比べ7日程度早く、着花量は平年並みか、やや多い状況であった。

JA全農かながわの根倉修県本部長は「肥料や飼料、燃料価格の高止まりが続く中、物価上昇に対し農畜産物への適切な価格転嫁が進んでいない。全農として、肥料の安定供給と生産物の適切な価格形成の構築に努めていきたい。」と強調した。

研修会では、株式会社コヤワタオフィスの大田晴啓CEOが「果樹散布・運搬へのドローン活用」と題した

基調講演を、県農業技術センター足柄地区事務所が「キウイフルーツ根腐れ病の発生状況調査」「肥効調節型肥料による温州ミカンの施肥回数削減技術の開発」と題し情報提供を行った。

また、同日は令和5年度キウイフルーツ園管理共進会褒賞授与式、園芸功労者表彰伝達式も実施。キウイフルーツ園管理共進会では笹倉忠房さん（JAかながわ西湘）が神奈川県知事賞を受賞した。令和5年度園芸功労賞は野谷茂さん（JA湘南）が受賞した。



神奈川県知事賞を受賞した笹倉忠房さん

県産の魅力 さらなる情報発信へ かながわブランドコンダクター交流会

県産の農林水産物ならびにその加工品の県認証ブランド「かながわブランド」を統轄するかながわブランド振興協議会は3月13日、かながわブランドコンダクターと生産者の交流会を実施した。

かながわブランドコンダクターは、県内在住の野菜ソムリエや料理専門家などから構成され、同ブランドのホームページやSNS、料理教室などを通して、それぞれの品目の魅力や地産地消のPR活動を行っている。令和5年度は9名が、かながわブランド振興協議会から委嘱を受け活動している。

交流会当日は、5名のコンダクターが伊勢原市の酪農家である石田牧場の石田陽一氏、秦野市の茶農家である高梨茶園の高梨晃氏を訪ね、積極的な意見交換により、生産者の思いやこだわりなどを認識し、コンダクターとしての知見を深めた。

交流会で石田氏は「色々な生産現場を見て、神奈川県産の農畜産物の理解を深めてほしい。」と想いを語った。また、高梨氏は「お茶の可能性を知ってほしい。」

と様々な種類のお茶をふるまった。

その後コンダクターは、寒川町の飲食店「かすがい食堂Pirahu」、JAはだの農産物直売所「はだのじばさんず」の視察を行った。

同協議会は、今後コンダクターの拡大を目指しており、それぞれの専門分野での情報発信により、県産農林水産物及びその加工品の更なる認知度向上に取り組んでいく。



「はだのじばさんず」を視察するコンダクター一行